

自然災害発生時における業務継続計画

法人名	社会福祉法人つぼみ会	種別	児童発達支援 放課後等デイサービス
理事長	中嶋 雄一郎	管理者	神宮 朋恵
所在地	北区桐ヶ丘 2-11-26 ボローニャヒルズ 2階	電話番号	03-5948-4870

目次

1. 総論	1
(1) 基本方針.....	1
(2) 推進体制.....	1
(3) リスクの把握.....	1
① ハザードマップなどの確認.....	1
② 被災想定.....	1
(4) 優先業務の選定.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
優先する事業.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し.....	2
① 研修・訓練の実施.....	2
② BCPの検証・見直し.....	2
2. 平常時の対応	3
(1) 建物・設備の安全対策.....	3
① 人が常駐する場所の耐震措置.....	3
② 設備の耐震措置.....	3
③ 水害対策.....	3
(2) 電気が止まった場合の対策.....	3
(3) ガスが止まった場合の対策.....	3
(4) 水道が止まった場合の対策.....	3
① 飲料水.....	3
② 生活用水.....	4
(5) 通信が麻痺した場合の対策.....	4
(6) システムが停止した場合の対策.....	4
(7) 衛生面（トイレ等）の対策.....	4
(8) 必要品の備蓄.....	5
3. 緊急時の対応	6
(1) BCP発動基準.....	6
(2) 行動基準.....	6
(3) 対応体制.....	7
(4) 対応拠点.....	7
(5) 安否確認.....	7
① 利用者の安否確認.....	7
② 職員の安否確認.....	8
(6) 職員の参集基準.....	8
(7) 施設内外での避難場所・避難方法.....	8
(8) 重要業務の継続.....	9

(9) 職員の管理.....	9
①休憩・宿泊場所.....	9
② 勤務シフト.....	9
(10) 復旧対応.....	10
① 破損個所の確認.....	10
② 情報発信（関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応）.....	10
4. 地域ネットワーク等の構築	エラー! ブックマークが定義されていません。
① 連携対応.....	10
② 入所者・利用者情報の整理.....	11
③ 共同訓練.....	11
5. 通所サービス固有事項	11

1. 総論

(1) 基本方針

本計画は、大規模災害の発生において、本事業所の利用者及び職員の命を守ることを最優先事項とし、次に施設の状況確認後、速やかに療育の継続または早期再開をすることを目的とする。

(2) 推進体制

平常時の災害対策の推進体制	
主な役割	部署・役職
災害状況確認（PC、スマートフォン等で情報収集）	管理者
施設の被害状況確認	管理者
療育継続、避難所への避難、閉所などの判断と連絡	管理者
東京都や本部への被災状況の報告	管理者
利用者、職員への避難指示	管理者
利用者、職員への避難誘導	管理者
利用者、職員の被災状況、人数確認	職員
管理者への状況報告	職員
利用者の安全確保	職員

(3) リスクの把握

① ハザードマップなどの確認

別紙参照

② 被災想定

首都直下地震を想定した場合、北区内では120人が死亡し、約2800人が負傷すると推計され、死者のうち約8割以上は、ゆれ、液状化建物被害により死者が発生するとされている。また、震度別面積率は、震度6弱が74.3%、震度6強が25.7%であり、区内の北東部に強い揺れが発生することが予測できる。

荒川の氾濫を伴う大規模水害時を想定した場合は、低地では5m以上の高さまで浸水し、2週間以上もの間、水が引かない事が想定される。更に、中小河川の氾濫や、土砂災害等の様々な災害が、荒川氾濫より先に発生する可能性がある。

【自施設で想定される影響】

	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
電力	ストップ		復旧						
飲料水	備蓄あり			復旧					
食料	備蓄あり			復旧					
水道	ストップ		復旧						
ガス	ストップ		復旧						
携帯電話	パング	復旧							
メール	パング	復旧							

(4) 優先業務の選定

<優先する事業>

- (1) 児童発達支援
- (2) 放課後等デイサービス

(5) 訓練の実施、BCPの検証・見直し

① 訓練の実施

避難訓練の実施（年2回以上）

- ・大規模地震を想定した避難訓練
- ・大水害を想定した避難訓練

② BCPの検証・見直し

避難訓練を終えての振り返りと、BCPの見直し（年1回）

- ・全職員と振り返りを行い、都度BCPの見直しを行っていく

2. 平常時の対応

(1) 建物・設備の安全対策

① 人が常駐する場所の安全対策

場所	対応策	備考
児童発達支援	落下物はないか。 転倒防止はされているか。	
放課後等デイサービス	落下物はないか。 転倒防止はされているか。	
事務所	落下物はないか。 転倒防止はされているか。	
応接室	落下物はないか。 転倒防止はされているか。	

② 設備の耐震措置

対象	対応策	備考
マンション内のため	なし	

③ 水害対策

対象	対応策	備考
高台にあるため	なし	

(2) 電気が止まった場合の対策

稼働させるべき設備	自家発電機もしくは代替策
施設内の明かり	懐中電灯を使用
PC	モバイルバッテリーを仕様
携帯	モバイルバッテリーを仕様

(3) ガスが止まった場合の対策

施設におけるガスの利用は無し。

(4) 水道が止まった場合の対策

① 飲料水

2Lペットボトル12本(2日分×12名分)

② 生活用水

2L ペットボトル12本

(5) 通信が麻痺した場合の対策

- ・携帯電話2台 (LINE、携帯メール)
充電が無くなった際はモバイルバッテリーを使用
- ・北区災害伝言ダイヤルを使用

(6) システムが停止した場合の対策

- ・事前に保護者には施設内で待機していることを伝える。
- ・施設から避難しなければならない場合は広域避難場所 (桐ヶ丘中学校) または
ライフスクール桐ヶ丘こどものもり (同法人が運営する認可保育園) に避難をする。

(7) 衛生面 (トイレ等) の対策

【利用者・職員】

緊急簡易トイレを使用

(8) 必要品の備蓄

【飲料・食品】

品名	数量	保管場所	メンテナンス担当
尾西食品 ドライカレー	15	更衣室	管理者
尾西食品 白米	15	更衣室	管理者
尾西食品 五目御飯	15	更衣室	管理者
尾西食品 わかめご飯	15	更衣室	管理者
尾西食品 エビピラフ	15	更衣室	管理者
ミネラルウォーター2L	24	更衣室	管理者

【医薬品・衛生用品・日用品】

品名	数量	保管場所	メンテナンス担当
ばんそうこう	1箱・1箱	児発・放デイ	田邊
サージカルテープ	1個・1個	児発・放デイ	田邊
伸縮包帯	1個・1個	児発・放デイ	田邊
ステラーゼ	10袋	児発	田邊
水だけコットン	1箱	児発	田邊
清浄用コットン	15枚	放デイ	田邊
貼れる眼帯（子ども用）	1箱	児発	田邊
貼れる眼帯（大人用）	1箱	放デイ	田邊
消毒綿	20枚・20枚	児発・放デイ	田邊
爪切り	1個・1個	児発・放デイ	田邊
三角巾	1個	放デイ	田邊
貼る眼帯	1箱	放デイ	田邊
体温計	1個	放デイ	田邊
ムヒ	1本	放デイ	田邊
くっつく包帯	1個	放デイ	田邊
氷嚢	1個	放デイ	田邊
そえぎ	1個	放デイ	田邊
キズパワーパッド	1箱	放デイ	田邊
滅菌ガーゼ	10枚	放デイ	田邊
粘着固定シート	1個	放デイ	田邊

【備品】

品名	数量	保管場所	メンテ担当
懐中電灯	2個	児発・放デイ	
タオル	10枚	児発・放デイ	
簡易トイレ	2個	児発・放デイ	

3. 緊急時の対応

(1) BCP発動基準

【地震による発動基準】

震度5を超える地震が起きた際に発動

【水害による発動基準】

荒川が氾濫警戒になった際に発動

管理者が不在の場合の代替者

管理者	代替者①	代替者②
神宮	加藤	田邊

(2) 行動基準

<地震発生時>

・管理者

- 1.揺れが収まり次第、状況を確認。
- 2.被害を確認し、療育が継続できるかの判断を行う。
- 3.保護者への連絡を行う（主にLINEを使用）
- 4.お迎えが時間内に来ない場合に引き続き療育を行う職員の判断を行う。
- 5.施設の被害とライフラインの状況を見て、翌日以降の開所判断を行う。

・現場職員

- 1.揺れを感じたら利用者を安全な場所に誘導し、揺れが収まるまで防御姿勢を取るよう指示。
- 2.頭上から物が落ちてこないか周囲を確認する。
- 3.利用者がパニックにならないよう声掛けを行う。
- 4.揺れが収まり次第、管理者に人数と安否を報告。
- 5.安全な場所で療育を行い、二次被害が起きないように備える。

<火災発生時>

・管理者

- 1.火元を特定し、速やかに避難を支持し、消防へ連絡を（園携帯で）する。
- 2.初期消火を行う。消化が難しいと判断した場合は、ドアを閉めて避難をする。
- 3.消化の有無にかかわらず、消防隊が到着するまで施設内には戻らない。
- 4.保護者へ連絡を行う（LINEを使用）

・現場職員

- 1.出火の報告を受け防災頭巾を準備する。
- 2.速やかにライフスクール桐ヶ丘こどもの森へ避難を始める。

<荒川氾濫時>

・管理者

- 1.状況を逐一保護者へ報告をする。
- 2.高台のため、基本的には施設内で待機をする。

・職員

- 1.食料、トイレの状況などを確認する。
- 2.台風などに伴い、ガラスが割れるなどしたら、安全な所へ避難する。

(3) 対応体制

神宮：保護者対応（電話、LINEにて連絡）

加藤：放課後等デイサービスの対応（人数確認、安全確認、室内の状況確認など）

田邊：児童発達支援の対応（人数確認、安全確認、室内の状況確認など）

防災道具の持ち出し

松本：児童発達支援の対応（人数確認、安全確認、室内の状況確認など）

(4) 対応拠点

第1候補場所	第2候補場所	第3候補場所
放課後等デイサービス	児童発達支援	応接スペース

(5) 安否確認

① 利用者の安否確認

【安否確認ルール】

対応（人数確認、安全確認、室内の状況確認など）

加藤：放課後等デイサービスの対応

- 1.人数確認
- 2.利用者の安全確認→ケガ人がいる場合は応急処置
- 3.室内の点検
- 4.管理者へ報告

田邊、松本：児童発達支援の対応

- 1.人数確認
- 2.利用者の安全確認→ケガ人がいる場合は応急処置
- 3.室内の点検
- 4.管理者へ報告
- 5.どちらか一名は利用者のメンタルフォロー

【医療機関への搬送方法】

北区医療センターへ連絡する。
受け入れ可であれば、直接搬送を行う。

②職員の安否確認

地震発生時の職員の安否確認方法

【施設内】

管理者が各部屋を回り、職員の安否確認を行う。
また管理者が見回りに来ない場合は、児童発達支援にいる職員のどちらかが、管理者の安否を確認する。

【自宅等】

- ・大災害が発生した際には、各自がラインワークスに安否報告を行う。
- ・連絡がない職員に対しては、管理者が他の手段で連絡を行う。

(6) 職員の参集基準

発災時の職員の参集基準を記載する。なお、自宅が被災した場合など参集しなくてもよい場合についても検討し、記載することが望ましい。

シフト制ではないため、特に必要なし。

(7) 施設内外での避難場所・避難方法

【施設内】

	第1 避難場所	第2 避難場所
避難場所	放課後等デイサービス	児童発達支援
避難方法	徒歩	徒歩

【施設外】

	第1 避難場所	第2 避難場所
避難場所	LIFE SCHOOL 桐ヶ丘こどものもり (同法人が運営する認可保育園)	① 桐ヶ丘中央公園 ② 赤羽自然観察公園
避難方法	徒歩	徒歩

(8) 重要業務の継続

優先業務の継続方法を記載する（被災想定（ライフラインの有無など）と職員の出勤と合わせて時系列で記載すると整理しやすい）。

<継続業務>※災害発生後からの優先順位が高い方から記載

- ・利用者の見守り
- ・施設状況の確認
- ・排泄介助（適宜）

<追加業務>※災害発生後からの優先順位が高い方から記載

- ・安全確保、避難
- ・利用者の保護者への連絡、情報提供
- ・物品確保
- ・けが人の手当て
- ・ライフラインの確認
- ・お迎えに出来ない利用者への食事支援、寝具準備

(9) 職員の管理

① 休憩・宿泊場所

休憩場所	宿泊場所
事務所	児童発達支援

② 勤務シフト

【災害時の勤務シフト原則】出勤の優先順位

1 施設長 2 児発管 3 現場職員

(10) 復旧対応

① 破損個所の確認

<建物・設備の被害点検シート例>

対象		状況 (いずれかに○)	対応事項/特記事項
建物・設備	躯体被害	重大／軽微／問題なし	
	エレベーター	利用可能／利用不可	
	電気	通電 / 不通	
	水道	利用可能／利用不可	
	電話	通話可能／通話不可	
	インターネット	利用可能／利用不可	
(フロア単位) 建物・設備	ガラス	破損・飛散／破損なし	
	キャビネット	転倒あり／転倒なし	
	天井	落下あり／被害なし	
	床面	破損あり／被害なし	
	壁面	破損あり／被害なし	
	照明	破損・落下あり／被害なし	

② 情報発信 (関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応)

安全確認がとれ、落ち着いた段階で法人 HP にて公表する。

4 地域のネットワーク等の構築

① 連携対応

【連携関係のある施設・法人】

施設・法人名	連絡先
LIFE SCHOOL 桐ヶ丘 こどものもり	03-5948-8280

【連携関係のある医療機関 (協力医療機関等)】

医療機関名	連絡先
医療法人社団亮敬会 すこやかこどもクリニック浮間	03-5918-9421

② 利用者情報の整理

避難先施設でも適切なケアを受けることができるよう、最低限必要な利用者情報をあらかじめまとめておく。

③ 共同訓練

連携先と共同で行う訓練概要について記載する。

同法人が運営する認可保育園であり、第1避難施設である LIFE SCHOOL 桐ヶ丘こどものもりと共同訓練を年に1回実施する。

6. 通所サービス固有事項

【平時からの対応】

サービス提供中に被災した場合に備え、利用者の緊急連絡先を把握する。

【災害が予想される場合の対応】

台風や積雪などで莫大な被害が予想される場合などにおいては、サービスの休止・縮小を想定し、あらかじめその基準を定めておく。

【災害発生時の対応】

サービス提供中に被災した場合には、緊急連絡先を活用し、利用者家族へ安否状況の連絡を行う。帰宅にあたっては、可能であれば利用者家族の協力も得る。